

廣務主任

昭和二十一年一月二十二日

復員廳第二復員局總務部在外部除調査班

「クラーク」部隊戰鬥狀況

一、延平外通知資料附記照會多中事項

二、兵力一覽

三、要圖

0078

第七六三號 殘整第一〇六號

昭和二十一年九月十五日

第七六三號 航空隊 殘務整理員 出 田 宗 孝

各地方復員局人專部長殿

比島「クラーク」地帯の戦闘状況の遺族宛
通知資料を送附に關スル件

小生歸還後本年二月第一回ノ調査結果提出以來各遺族ノ方々ヨリ手紙ニ
アル照會又ハ直接御來訪被下方多數アリ、何レ千御自身家族ノ身上ノコ
トトテ生存中ノ状況戦死時ノ状況等尙合極メテ細密ニ且リ一片ノ書狀ニ
テハ在回答不可能、且又詳細圖々ニ御返事ヲ添上ケルコト又時間的ニ余
福ナキ爲困難ナル狀況ニ有之候
依テ別紙ノ戰鬥状況詳細小生ノ調査シ得タル範圍ニテ御通知申シ候間各
遺族ノ御満足ヲ得ル迄御説明被下度此段願上候

(終)

0079

一、比島「クラーク」地區戰鬥狀況（歸還者ヨリノ遺族通知資料）

復員後多數の方ヨリ比島「クラーク」地區ノ戰鬥狀況ニツキテ照會アリ、隨報ヲ來勅下サル方キ多數アリマシタカ何レモ各個人ノ生計ヨリ戰死迄ノコト詳細ニ通知セヨトノコトデアリマスシ、且御照會ノ數極メテ多ク、部隊ニ共通ノ戰況等一々繰リ返シ手續ニテ御通知致スコトハ時間的ニ不可能トナツテ参リマシタノデ、乍失敗ノ事ヨリテ、各個人ヨリ通知ラセサル次第デアリマス

何分當部隊ハ玉碎一步前進ノ狀況ニアリ生存者僅少（終戰時迄ノ戰死者約九七%）ノタメ調査極メテ困難デアリ、特ニ將校以下一々中隊全滅等ノ場合ニハ各個人ノ最後ノ狀況ハ知リヤウガアリマセンノデ、其ノ旨了了承テ御禮ヒ致シマス

想へば慘タル戦ヒデシタ

昭和十九年十月米軍ノ「レイテ」上陸ヲ期トシテコノ大戦争ノ最後ノ決

0080

敵ト信セラレテキタ捷報作戦カ比島ニ展開セラレマシタ、南方ヨリ逐次
前進シテ、キタ第一航空艦隊ヲ、内地ニテ訓練待機シテキタ第二航空艦
隊ヲ日本ノ持つテキタ陸海軍航空部隊ノ最精銳カ比島ニ進出シ、ソノ主
力カ「クラーク」地區「ルソン」島中央平原ニアル飛行場地區ニ集
中「タクロバン」其他ノ米軍基地及母艦兵力トノ間ニ劇烈ナ航空戦ガ展
開セラレマシタガ悉シイ哉飛行機ノ相續カズ十一月十二月ト経過スルニ
ツレテ飛行場ニアル飛行機ノ數ハ急遽ニ減少シ、十二月頃ニ至ツテ自分
ノキタ「クラーク」中飛行場ニテ飛テ飛行機^{全員}必死ノ努力ニテ拘ラズ陸
上攻撃機一機陸上爆撃機二一三機程度ヲ百數十隻ノ船團ヲ相ツイテ輸給
送來ル敵ノ上陸ヲ阻止スルコトハ出来ズ、飛行機ヲ船ヲイテ我ガ
輸送能力デハ基地機動部隊ト稱シタ一、二航空艦隊ニ大部分ハ臺灣ヘキ
内地ヘキ前進スルコトハ出来ズ、D24 D25等ノ連日ノ面爆撃ニ齒ヲ喰ヒ
シガリツツ昭和二十年一月六日陸軍部署ニ就キマシタ、キトキト大部分ハ
ハ十日間ノ戦斗準備ヲ以テ準備ニテ進出シタ我ニ航空部隊デハ陸軍裝備

0081

シテハ何干ナク、⁴ 飛行機ノ機銃ヲハズシ、機ツタ爆弾カラ黄色火薬
 チ抜キ出シテ自ラ手榴彈ヲ造リ、戦車特攻隊ノ十斤砲包（爆薬）ヲ造
 リ武装編制ヲ行フト。ニ初級士官ヤ補充兵等ニ至ル迄陸軍教育ヲ行ヒツ
 ツ陣地構築ニ努メマシタ
 カツテ見ナレタ陸軍ノ装備トハ異リ、飛行機カラ下リテキタママ案ノヤウ
 ナ服装デ、防暑服ニ飛行員飛行靴、肩ニ航空機用旋回或ヒハ固定機銃ヲ
 携ツテ五、六〇〇發ノ彈藥ヲ首ニ巻キツケテ西方ノ高地ヘ登ツテ行ク姿
 ハ外國映畫デキ出テ來サウナ感シデシタガ、ドウ見テキ正規軍備ノ兵ニ
 ハ見エマレン一例ヲアゲルト五〇〇人ノ部隊ニ小銃七七挺各自彈藥九〇發
 發乃至一〇〇發トイフ貧弱ナ装備キ當時ハ頭痛ノ種子デシタガ結局無イキ
 キノハ無イノデ仕方カアリマレンデシタシカシ實際戦ツタ經驗デハ問題
 ニナリマレンデシタ飛行機ト戦車ト重砲ノ壓倒的ナ數ノ前ニハ、人員ト
 小銃ノ數ハ何ノ役ニキタタナイモノデアツタソデス。シカシ當時ノ我々
 ニハ機銃ト榴彈筒ト手榴彈ノミガ火砲ナキ「エチオピア」部隊トシテ與

へラレタ兵器デシタ。飛行場適海ノ高角砲ヲ二五発機銃ハ戰鬥ノ初期
 ニ於テ非常ニ奮戰シ最後ノ一門迄射チ盡ヒマシタカ二月ニハ砲ハ全戰
 線殆ド皆無ニサツテモタウデアリマス
 爆彈ヲ抱イテ戰車ト心中スル將以兵器ヲ自動車ヲ發條ヲ製作シタ斬込
 用軍力ヲ小範圍ノ局面デ目ヲ生而ナ投ゲ捨テテ戰キテニ於テ成果一〇
 ◎光ヲ期待シタ悲壯ト特攻隊ノ真氣込ヲ實氣込ダカテハ戰争ニナラズ、
 士氣旺盛ト我第一陣地トイッテキ後方ニ補給路ノナイ孤立シタ部隊
 ントツテハ之カ即チ全陣地デシタカニハ敵ノ歩兵ヲ戰車ヲ近行カズ
 數千米離レタ所カラ猛烈ト砲撃ト發射テ車ヲ木ヲ一切ノ障礙物ヲ燒キ
 抑ヒ塚ノ入口ガ兼襲スルトソコヘ終日十數回砲位ヲ砲撃カ集中サレ友
 軍ノ行動不能トナツタ所デ不發彈ヲ打ち込マレ、ソノ猛烈ノ砲撃ノタメ、
 ソノ砲地線ガ移ンデ陣地ハ塚全體カ遂次崩壊埋没シテ行ク狀沉デシタ
 埋没シタ陣地ノ内砲ヲ之マター一日ヒツキリナシニ連射打込ム自爆彈デ
 煙幕ヲ作り我側防線ヲ猛射撃ニヨリ制壓シツツ戰車歩兵ガ隊々ニ歩

イテ來ヤスハ、燃暮ガ用エテ進給ノ由來ル様ニナリ。當時ハ陣ノ陣地ハ突
破サレテギルトイフ状況デシタ。ソレテチ勇敵ヲ我將兵ハ谷間ニ隠レハ
テハ突然機銃ノ猛射ヲ敵ノ首級カラ浴ヒタリ。後方ノ宿營地ト飛行場ニ
斬込ヲ決行シテキマシタ。小銃ノ打チ方ヲ知ラナイ補充兵ノ上無兵ガ
二人デ一ダウニ驛附近ヲ行動中ノ戦車ヲ燃破シテ無傷デ歸ツテ來タリ
シテ士氣ヲアゲテキマシタ。キシ自分達ガ普通ノ裝備ヲ持ツテ假ニコ
ノ陣地ヲ攻撃シタラ一週間カ十日デ蹂躪シ去ル程度ノ貧弱ト陣地デシ
タカ唯壕ノ中ニ生キタ人間ガ頑強ルトイフ丈ノ方法デ敵ノ侵攻ヲ阻止
撃殺シ主陣地ノ抵抗ガ繼ケラレマシタカ左翼中部ヲ突破サレ後方ノ司
令部ト野戰病院ノ位置迄突破サレルニ至ツテ三月二十一日自分達ノ最
右翼部隊モ遂ニ殘サレタ唯一ノ間隙タル「ジヤングル」内ノ小路ニヨ
ツテ西方ヘ前進カ合セラレマシタ。

0084

附註)この時突破された左翼及中央に於いた部隊は大部分が玉碎し左翼より中央迄の第十三、第十四、第十五各戦區部隊及豫備隊たりし第十七戦區部隊の中絶戦時の生存者は合計約百名、最右端第一線にゐた第十六戦區部隊の生存者約三百五十名であります。従つて戦後者の大部分はこの戦場で消息不明となつて居ります。自分たちは後方より敵の追撃を受けつつ右前方、右側方に敵主力を受け更に一歩は左に宇廻しつつある情勢を受け乍ら後衛部隊として行動し標高一七八〇米のピナツホ山中の樞動戦となり翌月下旬にはスピック地方西より山砲、追撃砲を有する部隊來攻し更に西海岸イバ地方よりも敵の進攻あり東西より包圍攻撃し來れる敵軍は友軍主力の位置を求めつつ兩軍に合して北方へ掃討して行きました。自分達の部隊は包圍攻撃を受けつつ東側に交戦したる後隊どもジャングルの中に伏せたまま砲火を送り敵の北方へ掃討移動して行くのを見送り再び脱出に成功し待ました。比島のジャングルはそれ程濃密なものではなく一寸身体を動かしても樹

0085

が動いて所在を暴然しす。すぐ眼の前の縦横野地で敵が迫撃射についてワンスモ一とか何とか言ひ乍ら射つてゐる態が伺える距離なので自分達も完全に無言で音響管制を行ひつつ地に伏してこの野地を脱しました。三月に生き残つた少尉の隊員(含傷病兵)中の大部分が更にこの隊員で陣死したの時に直接連絡のとれる部隊は数百名でありました。この最後の包圍殲滅的攻撃を受けりてからは大規模な暴動にもならず連綿さに包圍せられたまま蜂腰となりましたがこの頃から砲臺よりも熱しい飢餓の生活に陥らざるを得ませんでした。内地との電信連絡も若干の電信以外には絶え、この山中の密林では行機によつても潜水線によつてもすでに友達の連絡網は絶望でした。もともと昭和十九年の十二月に平野にみた田から一人一日三五匁の米麥に芋を混食してゐたやうな給養の不十分な比島クラーク地区部隊では隊中も給養は當然悪化する一方で四月には大抵の部隊では米麥皆無になつてゐました。自分達の部隊も五月から完全に米なし生活に入り山中に芋畑を求めて彷徨しまし

0086

た、住民は非常に意強く敵の上陸に先立ち落下傘にて兵器を空中投下さ
れ武装しあり部落には近付き得ず山中の茅畑に各部隊の多数の人員が侵入
するので到底足りる筈はなく茅の葉が主で茅が穂といふ具合その茅ですら
八月末にはなくなつて了しました其他「比島春菊」だとか「とうろ」の木
だとか勝手に命名した野草材木(?)を主としあとは手あたり次第に竹の
やうな「たけのこ」でも「わらび」でも「かたつむり」「とかげ」「はつ
た」「いなこ」「なめくじ」「みみず」に至るまで一切を喰ひ盡しました
「濃霧」や「蛇」「鼠」を捕へた時などは隣の間隙に送宣傳する程の苦び
でした。今の内地で栄養失調などといつてゐる状態は未だ未だ同感になり
ません本當に栄養失調となり餓死して行くものを自分の眼で見且自分が除
どい所まで衰弱した経験から見るとそこで實驗のない栄養剤や代用食糧
を喰はしてゐる人間達が馬鹿馬鹿しくて仕方ありません、「腹面づら」
では餓死といふものはないけれども栄養不足のため体力低抗力がなく取傷
も治らずマラリヤ、赤痢等の脚病も先づ先づ回復することなく倒れて行き

0087

ま。完全に腸の無い部隊が他から援助を受けりる約一ヶ月半辛子で味をつけて生きてつづいた例もあります。鹽の不足は鹽不足で身体の組織が破壊するよりも前に腸がないと山中の野草等は味も何もなく鹽集でつづけないと味を知らないで身体の組織を云々する學者の説とは別な意味で苦しみがありません。内地へ歸つて人間の栽培する野菜は眞實に美味たと思ひました。野生の草木とは雲泥の差です。しかし内地にゐると何だかんだと言ふやうになつて來るので人間の營養にはきりがなと思ひます。内地へ歸つてから芋の葉などを思出してみればよくあのやうな困苦缺乏に耐えることが出来たかと思ふばかり不慮な位です。

五月以降の野戦では彈丸による損傷も若干はありましたが他の原因（傷病の悪化）で次々に倒れるもの續出し憂慮すべき状態でした。四月から八月迄の雨季は内地の梅雨と較べものにならないドシャ降り（連日）でジャングルの中で過す我々には彈丸よりも恐ろしい雨のために一切が落氣にやられて軍病患者は一雨毎に拍車をかけられるやうに増加して悪化して行きました。

た米が盡無になりてから殆どすへての者は、失調症（？）に陥はそんな言葉、
は知らず脚氣か腎臓病のやうなものであつてあましたが、で顔も胸もむく
んで皆人格が愛つて居ました。下痢は止らず後は勿論見えず歩行中に安定
がとれず可笑しい代原々死びました。こんなにも苦しむよりはむしろ丸に
溜つて死んだ方が楽だと云ふので、腹を切るものはなくなつて了ひました。
この頃には喉ふ方の問題が深刻で敵の動きや陣地の情報は大部分の兵にこつ
ては聞知になりませんでした。

八月。思ひかひなくも國史始つて以來の戦事となり（通信連絡殆ど途絶して
ゐた我々には詳細なる経過はわからずこのやうな惨めな無事件陣地であつ
たことは武装解除をうけてからすつと後で知つたことでした）國軍方面は
際司令官より三式命令を受けて終戦を確信し隊を築造した時、一月頃約二万
近かつたクラーク地帯に生者傷病兵台をテラス五名。もし陣地が
更に一ヶ月続いたら生き残るものはもう百名も期待出来なかつたでせう
更に玉碎五分前といふ所でした。

九月十二日一四〇〇時開始停止、武装解除（かくなつたことを知らずに死んで行つた人そのことを惜ふとたまらぬ氣持でした）以後マニラ南方カユルパン收容所に収容されましたがここでつかり褥にされて骨を馬場の土に至る迄取上られ人車書類なども没収されました

しかもこの編成が解かれ將校と下士兵とバラバラに散らされたため連絡とれず何とかが苦勞して手に入れた鉛筆や紙片を以て氣億をたどりつつ奮闘をはじめた次第です

しかし三月四月頃大部分の捕虜は將校以下全滅してゐる爲にこの消息すら分からぬものになりました。捕虜の状況については完全な情報提供を得ることは不可能のものが非常に多くあります。しかし同じ捕虜で居た者の一員としてたとへ一人でも消息不明のままに死してはきたりありません。捕虜の絶望が全く全滅感を感じて了つて居るので連絡は困難ですが、捕虜の調査に際しては歸還者一同協力して大いに熱力したいと思ひます

(終)

0090

附記 照會多き事項

各遺族より各種の照會が多ありますので、疑々繰り返される質問につき答へて置きます

○情況不明の理由

- 1 戦死者多数（九七〇）あること。各兵の身上に随しては各中、小隊長か一切記録して戦闘中も所持して居るのですが、砲撃等で陣地崩壊埋没する時等一切が一踏に埋れてしまひますし、各部隊將校以下の全滅が多いので書類は勿論部隊全部の動靜が解らなくなつて了つて居る場合が多いのです
 - 2 書類等が残つて居ないこと。終戦時最初の話では人事關係書類は、内地へ携行差支ないことになつて居たのですか、武装解除後收容所に至るまでの間に公式に或は非公式に米軍の爲に没収せられて殆ど残つて居ないこととなります
 - 3 記憶忘失せる事項が多いこと。書類等が没収せられて居るので、生存者に照會しても、發病年月日とか、患者に付添ひについて居た兵の名とか遺言とか詳しい照會はとても御返事の出ないことが多いのです
- 生き残つた人々も精神的肉体的の過度の疲労と衰弱で、歸つてから半年以上も心身共に癒

0091

養して居る状態で多分のしきも他部隊の人々については記憶のないのが普通で

戦中では今日は何月何日か知らないことも屡々ありました

終戦後連絡のとれないこと

終戦後收容所に入つてから部隊の編制を解かれハラに收容されて居たので連絡とれず

そのまま各個人としてハラに送還されて居る為調査極めて困難であります

○英連供養の件

終戦を確認したと、米軍に收容されてから何れも出来ないとか疎視されましたので、昭和

二十九年九月四日、「ルソン」島ヒアツホ山東方約七キロの標高一〇〇〇米の地蔵(通稱深山)

に木造の忠魂碑を建立、最高指揮官陸軍中尉坂田雄喜督、海軍部隊指揮官海軍大佐佐多直大

以下多数参列し慰霊祭を行いました。實物の寫眞はフィルムを没収されたため御目にかかれ

れません

○遺骨の件

遺骨の調査は、いまでも死んだ様な気がしないから死んだといふ證據はよくありません

れる方がありませんか。當地調査しては全く僅かの例外の地は何もありません

0092

遺骸の處置について自分の知つて居る範圍の所ては次の通りです

昭和十九年度内戦没者は火葬にして遺骨を其の後陣地内に安置しましたか多くは陣地將兵と共に埋没、昭和二十年一二月頃迄は陣地近くに土葬遺品を戦友が携行しました。三四月の包圍戰的攻撃を受けた時は部隊全滅の所は部隊全員行方不明、生存者の居る所ては其の場にて土をかけた木碑を建てた程度のもあります

包圍攻撃されて居る中で僅少の生存者ては生存者の何倍といふ多数の死体に對し手厚い處置は事實上不可能でした

五月以降は戦没者は割合少かつたので土葬にして木碑を建ててあります

遺品を戦友が持つて來たものも終戦時一切を米軍に没収された、時に大部分は身ぐるみ扱いて袋椽になつて了つたのでこの時遺品も没収品と共に焼却されてしまひました

従つて甚だ申し譯ない次第ですか遺骨も遺品も現地から携行し得ないことになりました

○戦死者公報が來てゐて生きて歸つた人があるかといふわけか、との照會に對しては戦陣中多数の死傷者が出た時陣地内に埋没したり或は匍匐して全身粉砕されたりして死体を確認してゐないものもありますか、普通生き残つて部隊と共に所任の解つて居るもの以外は戦死者と考

0093

● 戦死認定をしたものでも、これ以外に俘虜になつて居るものかあつたわけである。とくつか戦
闘中に俘虜になつた者は名前を内地に知られるの敷地しかつて、階級氏名を偽る者が非常に多か
つたらしいのです。

自分達の隊でも菊地といふ男が、戦に出たまま戦死して一人だけ俘虜となり、中村某と
名乗つて居りました。終戦になつて歸還出来さうな事が済つてから其の男は改名を米軍に出し
たさうです。これに類する偽名の多いことと、俘虜名簿はローマ字で何度も再記されて居るので
誤字が多く名簿と對照しても解らぬものがあることを御了解下さい。

○野戦病院の状況

戦病死するまで如何なる手當を受けられたか、付添兵を知らせてくれとかいふ照會もありませんが
傷病者繰出し或る時期には三〇〇名の中隊員中健康なもの約三〇名しか無いといふ事なこともあ
り、健康者が付添をするごととはとても出来ないのて輕患者が重患者の面倒を見て居り、清潔品
は陸軍部隊より譲つて貰つて居りました。

負傷者は捕虜によるものも多く、病氣は「マラリヤ」と赤痢が多い様でした。

クラーク防衛海軍部隊兵站病院は三月中旬敵の急襲を受けて全滅し、第十六戦區部隊野戦病院は

0094

16

四月上旬戦況により維持不可能となりハンハン川上流にて解散患者は全部原部隊に復帰しました
生命保険の關係で病名發病年月日を問合せられる方がありますか、當方にて照會した所では戦死
公報があれば保険金は支拂はれます。病名發病年月日等は記録の古いものか六部分です

○野原の形式

陣地が確保して埋没した時等、戦死した時に所在した^家地形を照會せられた方もありますか
あつて誰かとな^家に居たかは一寸解り兼ねます

「たこつ井」型、「長靴型」は一人宛、「さの字」型は部隊二十名位使用してここに居住し機銃
地等に必要に應じて進出します

何れも素堀り一部に板を使つた所もありますか「コンクリート」は資材もなし、工事期間もない
ので使つてありません、塹壕は草原又は密林であります

これ等の^家は天蓋か六十一〇米あれば五〇〇kg乃至一噸の爆弾に耐^家るものと言はれて居ました
が長時間連続の猛砲撃、戦車砲の直撃により入口附近から^家壊して埋没したものであります

0095

○兵器等の彼我の差異等戦況についての照會

あまり詳しくお返事する必要もないと思ひます。米軍は優秀な装備を持つ師團に飛行機、戦車火砲が終始協力して攻撃して来るので我々は殆ど航空部隊ばかりで何の陸戦装備もなく唯昭和十九年十二月から昭和二十年一月にかけて飛行機が無くなつて了つた爲に否應なしに陸戦部隊に就いては、装備の差は歴代的でした。昭和二十年一月以降内地よりの補給連絡も絶つて了つたので如何とも爲し得なくなりました

○生きて居るのに戦犯關係で歸つて来ないのではなにかとの照會に對して

クラーク地區部隊は航空關係が大部分なものと、その大部分が昭和十九年十月頃比高作戦の爲南方より海進又は内地より進出したもので住民との交渉は殆どなく戦犯は先づ無いと思つて居ます

長期駐中のものか少く戦場は飛行機中より西方に移つたので

18
0096

しかし詳細については承知して居りません

○部隊名の調査について

小生は直接御照會又は御來訪された方の中で部隊名を記入されるに固合せられる方が屢々あり二頁に御面詞をおかりすることになり御氣の毒です

小生は個人として自分の所屬して居た第七六三海軍航空隊の名簿は持つて居りませんがそれ以外の方の名簿は所持しませんから先づ各人事部へ御照會の上部隊名判明した上で小生に解ることとしたら人事部より送致、又は直接御照會下さる様に御願ひ致します

自分の所屬してゐた部隊關係のもつては各生存者に照會し個人消息に至る迄極力調査致します、又ケラーク地區部隊に所屬して居たことが明らかなる方に對しては個人状況は不明でも所屬部隊の行動戦況等出来る限りのことを御説明致します

マニラ、北部ルソン、南^北、中^北等の方にて直接御照會された方もありますが、之等は全然小生にては調査出来やせんから人事部にて御照會に御感置を御願ひ致します

○地圖

「ケラークとは何れの地なりや」「ルソン島とは何處の島なりや」「^北は比島に居ると言ふ人もあり「ルソン」島に居るといふ人もあり何れが本當か知らされたい」等との御照會された方があ

0097

り、各人事部に於て地圖を提示せらる候御願ひします
所要の地名地入地圖一葉添付して置きます

知

0098